

神島高等学校

実施日時	令和3年11月5日（金）
参加者	生徒700名、職員50名、計750名
実施内容	地震・津波についての講演と津波避難訓練

ねらい

近い将来発生が予想される大地震や大津波から、安全に“逃げ切る！”ため、生徒各自による速やかな避難行動への意識を高める。

主なプログラム

- 1 「出張！減災教育」の受講
- 2 シェイクアウト訓練
- 3 避難経路を各自で選択しての避難訓練
- 4 振り返り

概要

- 1 SHRで、担任が①～③について確認し、アンケート用紙を配布して、訓練後に各自で記入しておくように指示した。（終礼で回収）
 - ①本日、5限目に防災講演、6限目に津波避難訓練を行うこと。
 - ②生徒は、田辺高校への避難を想定し、各自の判断で、速やかに避難を始めること。
 - ③混雑する場所・安全なルートを各自で想定しておくこと。
- 2 5限目に、「出張！減災教育」（和歌山県危機管理局危機管理・消防課）の「地震・津波についての基礎講座」を受講した。2・3年生は体育館で直接講師から、1年生は各教室でオンラインで受講した。
- 3 6限目に「大津波警報発令」と「避難指示」を放送し、各自が「てんでんこ」に田辺高校

まで避難を行った。

- 授業担当者は、生徒に安全な姿勢をとるよう指示。（シェイクアウト訓練）
- 生徒・職員は、正門または通用門から出て、各自速やかに田辺高校へ向かってかけ足で避難を開始した。目的地は田辺高校下グラウンドである。
- 学校から避難先までは交通量が多く危険なため、田辺警察署の協力を得て交通整理を行った。
- 目的地の入り口にスポーツタイマーを置き、各自、かかった時間を確認した。
【想定】最大津波高12m 5m到達時間16分
10m到達時間24分
- 点呼が終わったクラスは、田辺高校からさらに避難が必要になった場合の経路を確認した。
- 帰校後、アンケートに記入して終了。
アンケートの集計結果を後日教室に掲示した。



参加者感想文

- 思った以上に田辺高校まで距離があった。
- いつも自転車で通る道なのですごく長く感じた。
- 混雑しているので別ルートも考えたが人波に流されて無理なところがあった。
- 混雑して、地震と関係のないけが人が出そうだった。
- 今日は神島だけだったが、津波の時は大勢が避難するから逃げるのが困難になる。
- 減災教室後の避難訓練だったので本番のイメージをよりつかみながら動いていた。
- 全校生徒が一斉に走り出して緊張感があった。
- 田高までの距離でも周りの人がいなかったら道が分かっていなかった。自分の地区周辺もハザードマップ等で調べておきたい。
- 田辺高校では不安なのでもっと高いところに避難したい。
- 素早く行動するためにはどうすればいいか考える必要がある。
- もしものことを考えて食料を準備したり家族ともっと話をして決めておこうと思った。
- 実際起こると怖くて動けないから、日頃からイメージして備えておきたい。
- 自分の命は自分で守ることも、人と協力することも両方大事だ。
- 自分でさえ坂道は大変なのに年配の方々はもっと大変なのだと思った。手伝いできることがあれば行動できたらと思った。
- 道が狭いため移動するのに少し時間がかかったので道の幅を広くしてほしい。

成果と課題

【成果】

警察署の協力をいただき、安全に訓練を終えることができた。

12月3日に田辺地方で震度4の地震が起こっ

た際、生徒は田辺高校までスムーズに避難することができた。

【課題】

南海トラフの巨大地震が発生した場合の津波到達時間は、3mの波が15分、最大12mの波が26分と想定されているが、避難に15分以上かかっている生徒が多いため、訓練を重ねることで、意識を変えていく必要がある。

避難経路には、狭い道や坂道が多いため、混雑して思うように進めないと感じた生徒が多かったようだ。経路にはブロック塀や電柱が多く、車の往来も多いことから、実際に津波から安全に避難するには、様々なことに気を配る必要がある。

また、アンケートによると、災害の備えについては、家での対策にまだ課題が見受けられるため、防災に関する情報提供が必要である。

今年度も、4月に1年生が避難経路の確認を行った。2月に予定していた1年生の自衛隊との防災訓練は、新型コロナ感染拡大のため、中止せざるを得なかった。海に近い場所にある本校にとって、津波避難訓練は必要不可欠であることから、来年度も複数回の訓練を計画している。